

未来を拓く大学

39

名古屋音楽大学 1965年に開学した名古屋音楽短期大学が前身。76年、器楽、声楽、作曲、音楽教育の4学科の名古屋音楽大学に。87年に大学院を設置。現在は音楽学部15コースで約510人が学ぶ。キャンパスはJR名古屋駅の西約3.6キロの市街地にある。卒業生は約8100人。学校法人同朋学園が設置母体。

——建学の精神「共なるいのちを生きる」とは。お互いの差異（ちがひ）を認めながら、協同して生きる、という意味だ。音楽自体、声楽やいろいろな楽器がある。最近では音楽

名古屋音楽大学

高橋肇学長 49

名古屋音楽大学（名古屋市中村区）は、名古屋市内で唯一の音楽大学である。声楽、器楽に始まり、コンピュータ音楽、邦楽、ジャズなどの専攻を次々と設け、時代の要求に合わせて進化を遂げてきた。学生たちは恵まれた環境で自分の好きな音楽に打ち込み、腕を磨く。高橋肇学長（49）は「音楽という専門性の高いジャンルを探索していくことで、社会に役立つ人材を育てていきたい」と語る。

（聞き手・編集センター幹事 光部雅彦）

——多様な専攻制度
——ピアノや管楽、弦楽など15のコースを設けているが。
専攻については、時代や学生のニーズに応えられる

療法の道に進む学生もいる。こうした違いを踏まえながら、共なる部分をどう生きるのか。例えば、歌しか知らない、ピアノしか知らないでは、音楽を生きることにほならないと思う。自分の専門を大事にした上で、学科や専攻の壁を越えてさらに学ぶ。そんなイメージを考えている。

専門大切に他分野学ぶ

よう、新設や再編を行ってきた。2000年から専攻（メジャー）に加え、副専攻（マイナー）と副科実技（サブマイナー）を履修できる制度「メジャー・マイナー制」を導入した。例えば、ピアノがメジャーの学生が、マイナーとして打楽器をとる。そうするとピアノの演奏に力強さが出てくるようになる。こうした相乗効果が徐々にいい形で出てきている。さらに11年

からは、二つの主専攻を履修するダブルメジャーも可能となった。欧米ではこうした履修形態が当たり前になってきているが、日本ではまだ新しい試みで、しっかりと定着させていきたい。

——演奏会などを通じて地域貢献に力を入れていく。
客がいて聴いてくれる。感動してくれる。だから演奏する。そんな取り組みを出張コンサートとして6、

7年前から進めている。今では年間で70回を超えるようになった。最近では在校生だけでなく、卒業生たちも頻繁に参加し、レストランやライブハウスで演奏している。音楽の専門家として、技術だけでなく、伝える力、磨くことが大事。その力をつけるためにも出張コンサートは大切にしたい。

——地域の人に指導
——附属音楽アカデミー
特色ある大学づくりの環境として、03年に邦楽専攻をスタートさせた。邦楽専攻を持つ音楽大はまだ珍しい。名古屋は元々、芸ごと



1963年東京都町田市生まれ。名古屋大学法学部卒業。93年から96年まで同大学法学部助手。同年から名古屋音楽大専任講師、同大准教授を経て、2010年3月から現職。専門は政治学。放送大学客員教員も務める。名古屋音楽大学長ブログ（<http://takahashihajime.blogspot.jp/>）を学長就任以来、毎日更新している。

伝える力生かして

学生へ一言

名音大生の強みは次の五つだと考える。①アンサンブルする力（共感する力）②ハーモニーの力（調和する力）③日々練習し学習する力④達成する意欲と力⑤前向きに努力する心。みなさんは音楽を通して、伝える力、広い意味でのコミュニケーション能力を身につけている。音楽を通じて学んだことを、社会の中で、他者とのかわりの中で、生かしてほしいと思う。

について。

音楽を始める入り口が広い。音楽大学が持つハード、ソフト両面の資源を地域に開放しようというのが狙いで、月3回、土曜日に大学の講師、卒業生らが楽器演奏やコーラスを教える。現在、3歳から高齢者まで約200人が登録している。有料だが誰でも可。県外からの参加者もいる。

——学生の進路、就職支援態勢は。
音楽に打ち込む学生は、ポジティブでコミュニケーション能力も高い。4分の1ほどが大学院などに進むが、就職希望者には、キャリア支援センターが音楽を生かせる形できめ細かな支援をしている。今春は9割以上が希望の職場に採用された。今後も学内で企業展を開くなど、支援を強化していく。

（月曜日に掲載します）